



ミュンヘン大橋近くでの反射法地震探査

平成7年兵庫県南部地震を契機に、山地と平野が会う神戸市のような都市における地震動の増幅による被害の増大が懸念されるようになりました。硬質の岩盤からなる地震基盤及びそれを覆う堆積層の構造と、地表面における強震動の特異な分布との関連性について全国的に調査研究が進んでいます。

札幌市も地震による市民の生命と財産に対する被害を分析し、より高度な防災対策を実施するため、文部科学省の地震関係基礎調査交付金を受けて、市街地の大半が立地している石狩平野北部地域を対象に、4カ年で地下の3次元的な地下構造を解明し、防災対策に活かすこととしました。

このパンフレットは、平成13年度から平成16年度にわたって実施した「石狩平野北部地下構造調査」の成果の概要をとりまとめたものです。なお、調査の実施にあたっては、下記の石狩平野北部地下構造調査委員会を設置し、助言と指導を受けました。

平成17年3月

石狩平野北部地下構造調査委員会

委員長	笠原 稔	北海道大学大学院理学研究科	教授
副委員長	笹谷 努	北海道大学大学院理学研究科	助教授
委員	鏡味 洋史	北海道大学大学院工学研究科	教授
委員	岡田 成幸	名古屋工業大学大学院工学研究科	教授
委員	岡 孝雄	北海道立地質研究所	主任研究員

札幌市危機管理対策室

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目

電話 (011)211-3062



さっぽろ市

O2-P02-04-777

16-2-171